

## へき地医療対策の数値目標について

### 1 へき地等への地域枠医師等派遣数

#### (1) 令和4年度 27名

(内訳)

①自治医科大学卒医師派遣数 15名

派遣先 県立志摩病院、紀南病院、県立一志病院、町立南伊勢病院、鳥羽市立神島診療所、鳥羽市立桃取診療所

②地域枠医師派遣数 12名

派遣先 県立志摩病院、紀南病院、尾鷲総合病院、大台厚生病院、県立一志病院

#### (2) 令和5年度 32名

(内訳)

①自治医科大学卒医師派遣数 18名

派遣先 県立志摩病院、紀南病院、尾鷲総合病院、県立一志病院、町立南伊勢病院、鳥羽市立神島診療所、鳥羽市立桃取診療所

②地域枠医師派遣数 14名

派遣先 県立志摩病院、紀南病院、尾鷲総合病院、大台厚生病院、県立一志病院

⇒ 年平均30名を目標値として新たに設定

### 2 へき地診療所等からの代診医派遣依頼応需率

へき地診療所での診療日数の確保と、へき地医療拠点病院からの応援を確実に行われることを把握する指標として適しているため、応需率100%として、第7次医療計画から継続して設定

### 3 三重県地域医療研修センター研修医受入れ数（累計数）

第7次医療計画において、コロナ禍で県外からの受入れがなくなったこともあり、年平均20名程度の受入れであり、コロナ禍等の例外的な年度を除いた実績も25名程度であったため、目標未達成となった。(図表5-8-7参照)。しかし、令和5年度においては、県内からの受入れ数に加え、県外からの受入れ数も増加し、これまでの平均受入れ数を超える数の受入れを達成する見込みであるため、第8次計画においては、継続して年平均30名の受入れを見込むことで、累計数563名を目標値に設定